

あけぼの

41号

令和7年
12月表紙写真
タムタム 園外活動

感性をみがく

所長 畠山 和男



今回は、私と同郷の原田泰治さんについてお話ししたいと思います。原田泰治さんと言えば、昭和57年から朝日新聞日曜版で「原田泰治の世界展」という連載を2年半続け、全国各地の情景を温かな感性で描いておられましたので、記憶にある方もいらっしゃるかと思います。また、当センター2階の多目的ホール前の廊下には「ただいま」と題した鯉のぼりと帰宅する小学生の風景を描いた作品（平成18年、倉沢さま寄贈）が展示されていますので、ご覧になった方も多いことでしょう。

泰治さんの絵は素朴画（ナイーブアート）とも呼ばれているようで、パステル調や柔らかい色合いで、観る人の心を穏やかにしてくれます。

泰治さんは昭和15年に信州諏訪で生まれ、1歳の時小児麻痺（ポリオ）に罹って両足が不自由になりました。4歳

のときに開拓農民として移住した南信州の伊賀良というところで少年時代を過ごします。そこでは、杖を上手に使って坂を上り下りし、雪滑りも他児と負けなくらいだったそうです。しかし、時には「泰治さは、そこで待っててや」と言い残し置いてきぼりにされます。そんなときは周囲の自然をじっくりと観察して、遊ぶものを見つけます。そして、自然を身体全体で、五感すべてで感じて楽しんでいたそうです。

ポリオは以前、脊髄性小児麻痺とも呼ばれ、当センターの入所患者さんの基礎疾患としては脳性小児麻痺（脳性麻痺）に次いで多い疾患でした。昭和35年頃が発症のピークでしたが、その後予防接種のお蔭で激減し、今では発症が見られません。

泰治さんは障害にもめげず、反対にそれを武器にして自分の感性を磨いて来られました。私たちも周りの自然の輝きを敏感に感じる心を常に持ち続けたいものです。

なお、この文章を作成するに当たっては、原田泰治著「私の信州」（講談社文庫）から一部を参照・引用させていただきましたことをお断り致します。

特集

心躍るラザウォークへの外出体験

「今度は病棟の外でお買い物ができたらいいね。」

昨年度、入所支援課は病棟内にて買い物体験を実施し、利用児者様の楽しそうな様子を見てこんな願いを持ちました。With コロナの考え方が当たり前になり、少しずつ感染症対策も緩和されてきた昨今。もう一歩前進した活動ができるのではないかと考え、実現したのがラザウォークへの外出です。

日々の関わりや活動の中で、参加者の方々とどんな物が欲しいのか、想像力を膨らませながら一緒に考えました。ラザウォークでは多種多様な商品が用意



されています。選択肢の提示等について職員自身迷ってしまうこともありましたが、意思決定支援の幅を広げる貴重な機会になったと思います。また、密を避けつつフードコートでアイスクリームやジュースの飲食が可能となり、普段の病棟生活では経験できない外食に挑戦するきっかけとなりました。

迎えた当日。お店に入ると、利用者みなさんは目をキラキラと輝かせながら、あちこち見て回りました。色とりどりに整列された衣類、気になっていた食べ物や本などを購入して楽しみました。ピンとくるものがなかなか見つからず、時間いっぱい悩んでいる方もいらっしゃいましたが、大型ショッピングモールならではの贅沢な悩みを体験できたかなと感じています。

一人ひとりが大切に選び取った“モノ”たちは、外出先で感じたワクワクやトキメキを思い出させてくれています。今回参加した方は限られているものの、これからも利用児者様の願いに耳を傾け続け、想像し、日常生活を彩る活動を大事にしていきたいです。



部門紹介コーナー「診療棟」

診療棟は5つの科があります。

栄養給食科は管理栄養士2名で、給食調理は委託しています。ペースト食、ソフト食、噛み食など皆さんの食べる機能に合わせた食事を提供しています。おいしく安全に食べられるように今後も工夫していきます。

検査科は臨床検査技師2名で脳波、心電図、呼吸機能の生理機能検査と血液検査や尿検査、感染症検査等の検体検査を行っています。安全に精度の高い検査が出来るよう新しい知識の学習とスキルの向上に努めています。

歯科衛生科は障害者歯科として、予防や治療がスムーズに受容できるよう、トレーニングや術式

など患者様に合わせた対応を心がけています。「歯科は怖いところ」と先入観を持たずに（持たせずに）、お気軽にご相談ください😊

放射線科は1人職場です。一般レントゲン、X線透視検査、ポータブル撮影、パントモ撮影、骨密度検査、CT検査等を行っております。昨年オペ室用透視装置を更新しました。

薬剤科では、主に入所されている方の日々の薬を調剤しています。薬の適正な管理、薬に関する情報の収集や提供も行っています。患者さんが安心して、安全なお薬を使用出来るように努めています。



生活の中のひとこま



続・みんなが主役☆タムタム運動会☆ 通園支援課（タムタム）吉村 真弓

9月12日はタムタム運動会！昨年はおじいちゃん、おばあちゃん達に参加を拡大した運動会でしたが、今年は5年ぶりに外来のお友達にも参加を呼びかけて、4名の参加がありました。より賑やかにパワーアップした運動会は大盛況！感染に留意しながら、少しずつ行事を拡大できており、競技を通してご家族や外来の方々、スタッフ一同が一人ひとりの成長を感じ、共有する貴重な時間となりました。みんなたくさんがんばったね！



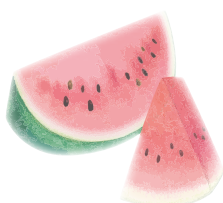
チェンパロ♪♪ミュージックケア♪♪ 通園支援課（チェンパロ）水野 亮

チェンパロでは活動のなかでミュージックケアを行っています。研修を受けた有資格者2名が進行し、リラックスできるような曲を流してオーガンジーやタッピングをしています。鳴子やパチ、鈴を音楽に合わせて楽しみ、また新聞紙やビニール袋などを使い、多くの感覚も刺激しています。多くのセッションを実施するなか、季節や海を感じる内容も行いエンジョイしています！



夏の恒例イベント！興奮したスイカ割り大会 入所支援課（ピッコロ）長田 勇

気づいた方はいましたか？今年は中庭の農園で大切に作物が育てられています。そこで「あけぼの産スイカ」が育ちました。8月に恒例の「スイカ割り大会」が開催され、なんとそこに「あけぼの産スイカ」が登場！皆驚き「割れないよ」と複雑な心境に。ただついにAさんが割り赤い果肉に歓声があがり、最高のクライマックスに！最後は甘いスイカを皆で美味しく味わいました。今年の猛暑を吹き飛ばす涼しい思い出となりました。



学童の楽しい夏休み 入所支援課（コルネット）西堀 涼子

コルネットの学童3名は元気に夏休みを迎え、スイカ割りやプールなど、夏休みらしいひと時を過ごしました。中でも、学童だけのお楽しみ会では「染物体験」に挑戦しました。真っ白な長袖Tシャツに輪ゴムで結び目を作り、渦を作るように丸めます。職員と一緒に選んだ好みの色水を、長袖Tシャツに思い切ってかけます。染まった長袖Tシャツをひろげてびっくり！色が重なりあって、思いがけない色や模様が出来上がり、職員も学童も手を叩いて喜び合いました。





実習生さん、こんにちは!!

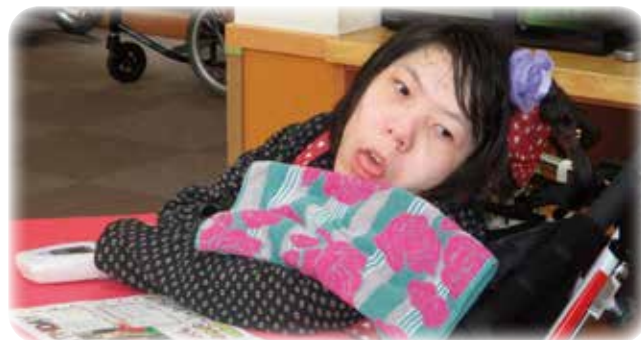
入所支援課（ピオラ）相吉 早恵子

「お姉さんが来た！」迎えた利用児者さんたちは、年齢が近いことで通じる話題や空気感を感じて嬉しそうな笑顔でした。感染症の影響で、しばらく入所病棟に実習生が来られませんでした。でも、やっと会えました。山梨学院短期大学の保育実習生が来てくれました。病棟の雰囲気明るくなって、「ありがとう。」の素直な感謝の言葉がたくさん聞かれました。改めて、温かい人とのつながりの大切さを感じる機会となりました。



自治会活動

今年も選挙ポスターの製作から始まりました。候補者名と共に目標を掲げ、写真入りのポスターを製作。活動の時に選挙活動も行いました。病棟ごとに投票し全員が見事当選。総会で任命式も行われ、皆の承認を得て令和7年度の自治会メンバーが発足しました。それぞれ挨拶し目標を語りました。「こんにちは。会長の平子望です！皆元気に、With コロナでできること、交流を増やして楽しく豊かに過ごそう！1年間がんばります！！」



メッセージ ～保護者の方から～

タムタム

青木彩さん（青木祐さん母）

タムタムに通い始めて3年目になりました。通い始めた当初から割とすんなりと楽しい場所、と思ってくれたようです。通園の日の嬉しそうな顔は今でも変わりません。タムタムに入ってから親の私たちがびっくりするほど成長し、本人の出来るを沢山引き出してくれた先生達に驚きです。常に共感し合ってくれる先生方には本当に感謝の気持ちでいっぱいです！

お友達も沢山の友達で来て本当にタムタムで良かったです。これからも一緒に考え喜び楽しめるそんな親にとっても心の拠り所な場所です。



ピッコロ

磯野路子さん（磯野純さん姉）

知力なく体力もなき末の子に家族は生きる力を貰ふ父が四人きょうだいの末っ子の純を詠んだ歌です。父母の苦労は言い尽くせませんが、家族は「純と共に」という思いで生きてきました。純がいることで、互いを労り、助け合う気持ちが強くなったと感じます。幼少の頃は命の危機も何度もありましたが、かわってくださった方々のおかげで、何とか乗り越えることができました。そして甲府養護学校高等部卒業後、あけぼの医療福祉センターに入所させていただき、現在に至っています。

車好きな純をドライブに連れて行ってくださったり、食事の塩分やスプーンの形状に留意して下さったりと、本人に合ったきめ細かいご配慮に感謝するばかりです。純は間もなく五十六歳になります。数え切れないほど多くの方々のお力をいただきながら大切に守ってきた命を、これからも支えていきたいと思ひます。



どうぞよろしく！ 新利用児・者 紹介

～ご家族からの
コメント～



大木 なのは さん

今年の6月からタムタムに通っています。

末っ子長女で、とても甘えんぼうです。笑う時の声がおもしろくて、お兄ちゃんが笑わせようといつも挑戦しています。お友達や先生方と仲良く過ごして欲しいです。



赤岡 裕美 さん

この度、こちらにお世話になることになりました、赤岡裕美と申します。

温かく迎え入れてくださり、ありがとうございます。

新しい人生のスタートにあたり、一日も早くこちらの生活に慣れて、自分らしく過ごしていきたいと思っています。

スタッフの皆様や入所者の皆様と一緒に、温かい毎日を築いていけたら嬉しいです。
どうぞよろしくお願いいたします。



短期入所を利用してみませんか

当センターでは、家庭で生活されている重症心身障がいをお持ちの方を対象に、短期入所事業を行っています。介護者の事情や、本人の生活訓練等の目的で利用でき、日帰りから宿泊を伴う利用まで柔軟に対応しています。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症移行したことに伴い、令和7年度から、短期入所定員をコロナ前と同等数の8名／日に戻し受け入れを行っています。感染症予防をしながら、安心してご利用いただけるよう職員一同心を込めて専門的ケアを提供しています。また、短期入所中に日中活動を取り入れ、楽しくメリハリのある生活を送ることができるよう心がけています。

ご興味のある方は、お気軽に地域支援課までお声がけください。



センターでの取り組み あけぼの療育学習会について

今年度も、県内の障害児療育技術の向上や障害に対する理解を深める事を目的とし、当センター主催の療育学習会を3回開催します。ここでは、第1回の学習会の様子をお伝えします。

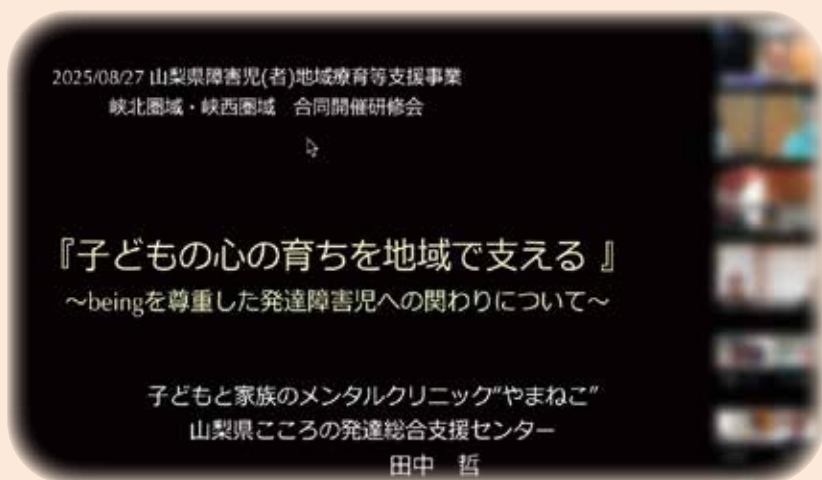
第1回は令和7年8月27日（水）に子どもと家族のメンタルクリニックやまねこ院長で山梨県立こころの発達総合支援センター顧問の田中哲氏をお招きして、「子どもの心の育ちを地域で支える～beingを尊重した発達障害児への関わりについて～」というテーマで、オンライン形式で行いました。

「being」とは、「いるということ、（他の誰でもない）その人であるということ」です。子どものbeingを大切にするという視点から、子どもの心はウチ・モードとヨソ・モードの世界で動き続けることによって育っていくことをベースに、beingの視点から発達障害を再定義するとともに発達障害の子どもたちを地域で支えるために大切なことについてお話いただきました。

今回は、峡北圏域・峡西圏域合同研修会も兼ねており、所内の職員や保育・福祉・教育・行政関係者から一般の方（保護者）まで約90名の参加がありました。アンケート結果では、「その子どものbeing、その子らしさと地域で支えていくことの大切さを学んだ」といった意見が多く、好評でした。

第2回は令和7年11月14日（金）に栄養と口腔ケアについて、第3回は令和8年1月30日（金）にリハビリについて、それぞれ当センターの職員が講師となり学習会を実施する予定です。

今後も、よりパワーアップして皆様に役立てていただけるような学習会の開催を行っていきたいと考えています。そして、地域に貢献できるよう努めていきたいと思います。



苦情解決報告

苦情解決窓口担当

令和6年度及び令和7年9月までの苦情解決結果についてご報告致します。
対応件数は、職員の接遇に関するものが1件となっております。
これらのご意見には誠意を持って対応させて頂くとともに、申し出のあったものについては、早急に対応させて頂きました。

編集後記

皆様のおかげであけぼのだより第41号を無事に発行することができました。

今後も多職種で連携しながら、常に利用児・者が真ん中であることを意識して支援をしていきたいと考えております。また、地域で支え合い当事者やご家族が笑顔で過ごせるような環境作りを目指して、地域の皆様とともに歩んでいけたらと思います。今後ともご理解とご支援をよろしくお願い致します。

なお、あけぼの医療福祉センターではホームページも開設しておりますので、ぜひご覧ください。

<https://www.pref.yamanashi.jp/akbn-iryo/center.html>

あけぼの医療福祉センター

検索



↑スマートフォン等
の方はこちらから

編集委員

鈴木 孝二	幡野 正和
岩間 達	杉本 萌花
荻野 祐子	名執 明美
稲垣 悦子	掛川 昌美
岡 いくみ	堀内 彩
内藤 縁	